



2025年1月16日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 へ り オ ス
代 表 者 名 代 表 執 行 役 社 長 C E O 鍵 本 忠 尚
(コード番号：4593 東証グロース)
問 合 せ 先 執 行 役 C F O リ チャード・キ ン ケ イ ド
(T E L : 0 3 - 4 5 9 0 - 8 0 0 9)

セルリソーシズ社との細胞培養上清液の製造に関する業務提携に向けた 基本合意書締結のお知らせ

当社と、セルリソーシズ株式会社(本社：東京都千代田区、代表取締役：有田 孝太郎、<https://cellresources.co.jp/> アルフレッサ ホールディングス株式会社 100%出資、以下、「セルリソーシズ社」と言います。)は、当社が保有する再生医療等製品の生産の過程で産出される細胞培養上清液の製造に関する業務提携に向けた基本合意書(以下、「本合意書」と言います。)を締結しましたのでお知らせします。

記

1. 本合意書の概要

当社は、「[AND medical 社との培養上清液活用に向けた共同研究契約締結のお知らせ](#)」(2024年4月9日)にてお知らせのとおり、AND medical group(以下、「AND medical 社」と言います。)が行う新たな治療法に関して、当社の再生医薬品の技術及び原材料の提供を主たる目的とした共同研究契約(以下、「本共同研究契約」と言います。)を締結し共同研究を進めております。本共同研究契約においては、原材料の製造方法及び製造体制が確立し共同研究の目的が達成された後、原材料となる細胞培養上清液を当社から AND medical 社に供給するための供給契約(以下、「本供給契約」と言います。)を締結する予定です。

本供給契約で提供される細胞培養上清液の製造に向け、製造拠点の整備を予定していますが、その立ち上げ並びにその後の運用に関して、細胞原材料供事業及び細胞加工物の製造事業を行うセルリソーシズ社と、本合意書に基づき業務提携ビジネスフレーム、役割分担及び費用負担等についての協議を行い、本契約締結に向けた交渉を行います。

2. 相手先の概要

(1)	名 称	セルリソーシズ株式会社
(2)	所 在 地	東京都千代田区内神田一丁目12番1号
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役 有田 孝太郎
(4)	事 業 内 容	細胞原料の供給、特定細胞加工物の製造、再生医療等製品の製造
(5)	資 本 金	4億5,000万円
(6)	設 立 年 月 日	2022年4月21日
(7)	発 行 済 株 式 数	900株
(8)	決 算 期	3月31日
(9)	従 業 員 数	31名
(10)	大株主及び持株比率	アルフレッサ ホールディングス株式会社 100%

(11)	当事会社間の関係	
	資本関係	該当事項はありません。
	人的関係	該当事項はありません。
	取引関係	該当事項はありません。
	関連当事者への該当状況	該当事項はありません。
(12)	最近2年間の経営成績及び財政状態	
決算期	2023年3月期	2024年3月期
総資産	1,301,916千円	980,090千円

注：経営成績及び財政状態につきましては、相手先との協議のうえ上記内容での開示として
います。

3. 本合意の日程

決議日：2025年1月16日

基本合意書締結日：2025年1月16日

4. 今後の見通し

本合意書締結による当社2025年12月期連結業績への現時点での影響はありません。今後、開示すべき事項が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

■セルリソーシズ株式会社について

セルリソーシズは、「再生医療という希望をすべての人に届ける」を理念に掲げ、2022年に設立されました。国産細胞原料材料（マスターセル）の提供および自家と他家の両方における細胞加工物の製造を通じて、高品質で安定した細胞を提供することで、再生医療を必要とする人々への貢献を目指しています。

■株式会社ヘリオスについて

再生医療は、世界中の難治性疾患の患者にとって新たな治療法として期待されています。この分野では、製品開発・実用化への取り組みが広がり、将来的には大きな市場となることが見込まれています。ヘリオスは、iPS細胞（人工多能性幹細胞）などを用いた再生医薬品開発のフロントランナーとして、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。2011年に設立し、2015年に株式上場（東証グロース：4593）し、再生医薬品の実用化を目指して研究開発を進めています。体性幹細胞再生医薬品分野では、健康な成人ドナー骨髄由来の多能性成体前駆細胞（MAPC）から成る独自の細胞製品である MultiStem®を使用した脳梗塞急性期や急性呼吸窮迫症候群（ARDS）及び外傷の治験を実施しています。MultiStem®は、強力な抗炎症作用と免疫調節作用を示すことが示されており、さまざまな病態への応用が可能です。後期臨床試験において数百人の患者で試験され、3D培養法で一貫して製造されており、複数の適応症において数百人の患者で安全性と有効性の両方が実証されています。ヘリオスは、脳梗塞急性期、ARDS、外傷に対し、MultiStem®をグローバルに推進してまいります。iPSC再生医薬品分野では、免疫拒絶のリスクを低減する次世代iPS細胞であるユニバーサルドナーセル（UDC: Universal Donor Cell）を作製し、さらには、遺伝子編集技術により固形がんに対する殺傷能力を強化した次世代NK細胞（eNK®細胞）の開発を進めています。eNK®細胞は、

動物モデルにおいて 強固な抗腫瘍効果を実証しており、大量生産が可能な 3D バイオリアクターでの製造プロセスを実現しています。これらにより、がん免疫領域をはじめ、眼科領域、肝臓領域などで新規治療薬の開発に取り組んでいます。

<https://www.healios.co.jp>